

慶應義塾大学文学部

3つの方針

【人文社会学科・図書館・情報学専攻・学士（図書館・情報学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、個人や機関、団体などにより生産され記録された経験や情報、知識について、その流通・組織化・提供・利用・保存・制度など諸側面の基礎的な知識の学修を通じて、情報という観点から問題を発見し自ら解決できる資質の形成と総合的な能力の開発により、社会のさまざまな場面で幅広く活躍できる人材を育成することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（図書館・情報学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)： 特定テーマから広範な分野にいたるまで文献と情報を検索、収集、分析する能力。

資質・能力目標(2)： コンピュータをはじめ情報機器・情報メディアを活用する情報処理能力。

資質・能力目標(3)： 図書館司書としての基礎的資質と情報専門職としての基盤形成。

資質・能力目標(4)： 日本語と英語による専門文献の読解能力。

資質・能力目標(5)： 効果的なプレゼンテーション能力および論理的な文章表現能力。

資質・能力目標(6)： 学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は以下の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適切である。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科図書館・情報学専攻（学士：図書館・情報学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育法を組み合わせる教育を実施する。

- (1) 基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。また、図書館・情報学専攻以外が設置する専門教

育科目の履修を通して、幅広い視野と知識の習得を図る。

(2)自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目、インターンシップ科目などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

(3)知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)： 特定テーマから広範な分野にいたるまで文献と情報を検索、収集、分析する能力。

→ 総合教育科目、必修語学科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能を身につけたうえで、専門教育科目において図書館・情報学にかかわる文献と情報を検索、収集、分析する基礎的な技能から、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標(2)： コンピュータをはじめ情報機器・情報メディアを活用する情報処理能力。

→ 専門教育科目において、情報処理、情報管理などの諸活動および情報サービスに必要不可欠な情報検索と情報組織化の基本的な考え方と技術について、講義と演習を通して学修する。また、情報メディアの社会的制度、技術特性、人間の認知と行動を踏まえながら、情報メディアが社会で果たす役割について学修する。

資質・能力目標(3)： 図書館司書としての基礎的資質と情報専門職としての基盤形成。

→ 専門教育科目において、図書館や情報提供機関のサービスと運営を中心に、図書館司書等に必要とされる、社会において知識と情報を活用するための仕組みについて、講義と演習を通して学修する。

資質・能力目標(4)： 日本語と英語による専門文献の読解能力。

→ 必修語学科目での学修成果を踏まえ、専攻設置の専門教育科目において、図書館・情報学にかかわる日本語と英語による専門的な文献を読解する能力を講義および演習を通して育成する。

資質・能力目標(5)： 効果的なプレゼンテーション能力および論理的な文章表現能力。

→ 総合教育科目、必修語学科目での学習成果を踏まえ、専門教育科目、特に研究会において、所属する各専攻にかかわる基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標(6)： 学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

→ 第3学年から第4学年にかけて全員が専門教育科目の研究会に所属する。研究会の担当教員の指導のもと、課題設定から課題解決、さらに成果のまとめや報告までを含めた卒業研究を課す。卒業研究は、中間発表や最終発表を含めて、複数教員による審査および審査項目の標準化などの指導体制のもとで実施することにより、総合的な能力の育成を図る。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な審査によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。